
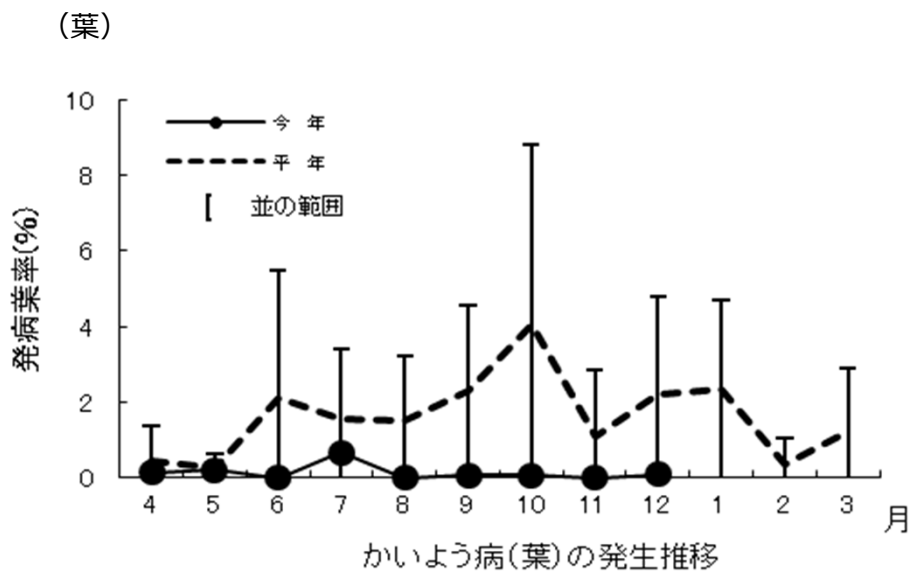



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
12月の発生量（現況）	並		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量だと考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

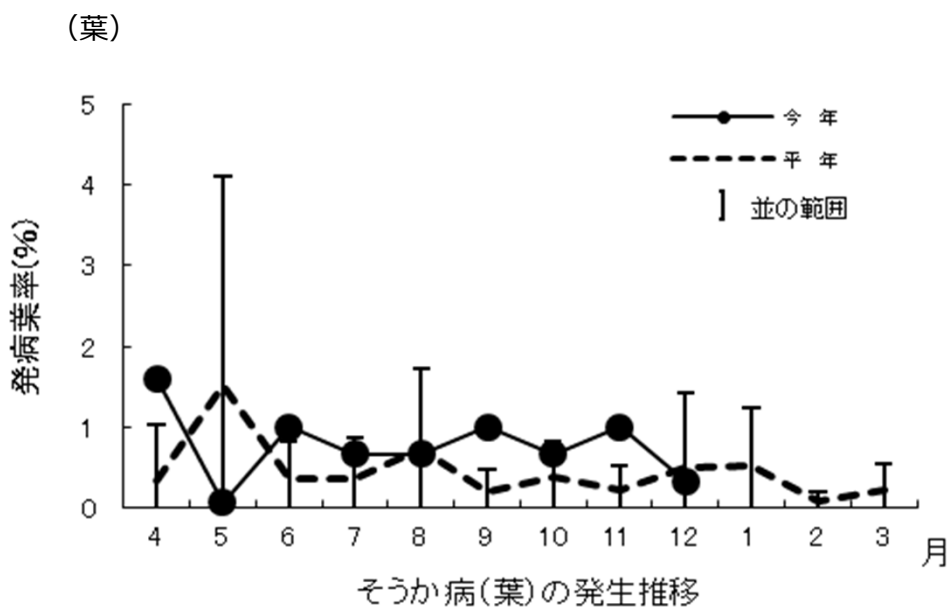


防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は翌年の伝染源になるので除去する。


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
12月の発生量（現況）	並		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量だと考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

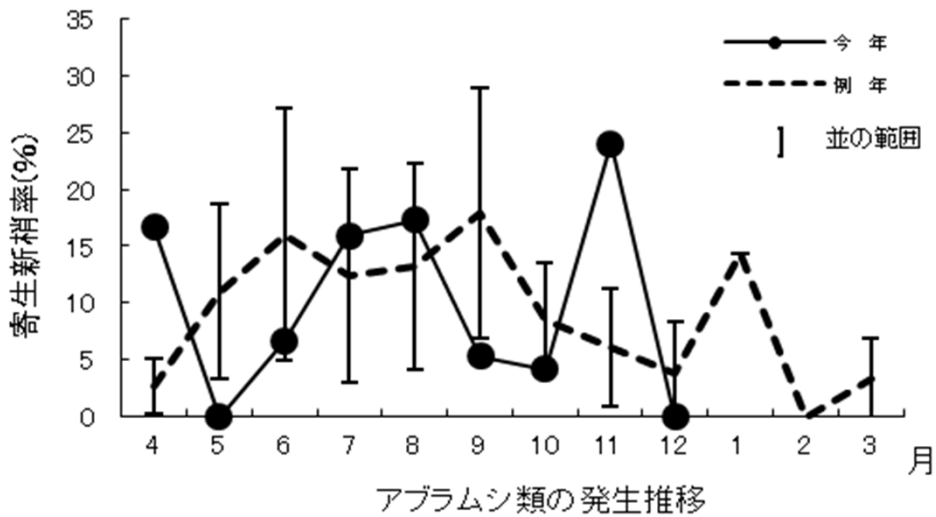


防除のポイント

- ・罹病葉・枝は翌年の伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
12月の発生量（現況）	(発生なし)並		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生新梢率の例年の発生推移から、12月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



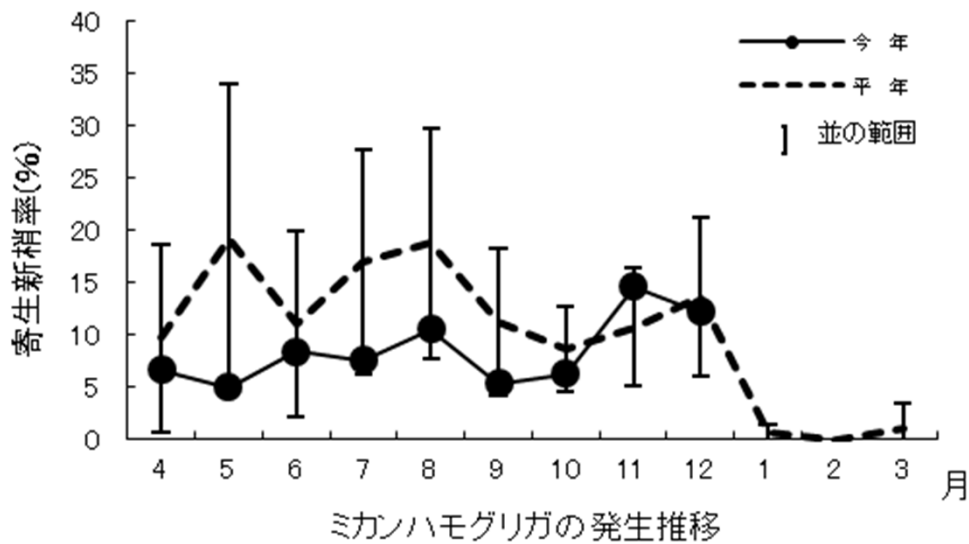
防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミカンハモグリガ		
12月の発生量（現況）	並		
1月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	寄生新梢率の平年の発生推移から、12月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

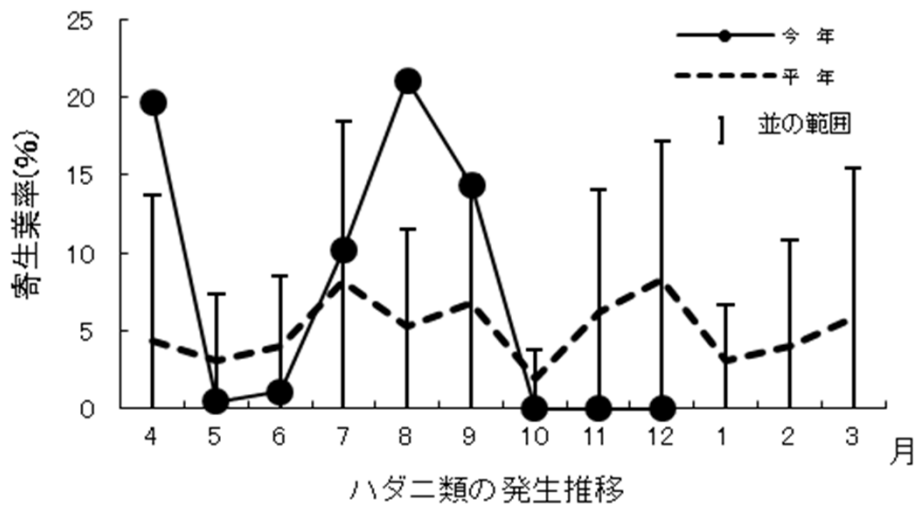


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
12月の発生量（現況）	(発生なし)並		
1月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、12月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状